

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902678		
法人名	社会福祉法人友和会		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	旭川市東光17条8丁目1-10		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902678-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大事にしている、いつも職員が寄り添い、悩みや不安を聞けるように心がけている。その人らしい生活がおくれ、思いが形に出来るように努力している。今の生活が維持できるように、毎朝ラジオ体操を行い、頭の体操であるレクリエーションも、カルタ・トランプはほぼ毎日、時々職員の工夫した楽しいレクリエーションも行っている。誕生日には本人の食べたいものを提供し、職員の焼いたケーキで誕生会をしている。好き嫌いのある方には代替品を用意して、楽しみのある食事が出来るように心掛けている。何を食べても美味しいと言ってくれるので、職員も頑張って作っている。職員同士が協力し合い、希望の休みがとりやすいように、相談しやすい環境作りに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<事業所と家族との信頼関係>
この事業所では、日頃から、家族の来訪者が多く、来訪や面談の時は、必ず声かけをして、入居者の生活の様子を伝え、何か要望がないか把握に努めており、家族の存在が一番大きいと言うことを職員が共有している。家族アンケートでも、入居者の日常生活状況を、常に、きめ細く伝え、家族と同じような愛情と思いやりの姿勢に家族の満足度も高く、感謝されており、本人と家族の絆を大切にしながら事業所として、家族との信頼関係を築いている。

<日々の暮らしの把握>
入居年数が長くなってきているので、一日の過ごしかたは把握されているが、心身の状態はその日によって違うことから、常に気になることは記録や連絡ノートに記載し、職員は、その情報の共有に努めている。また、その人らしく生活できるよういつも職員が寄り添い、思いや不安を聞けるよう日々の暮らしの流れのなかで、本人の生活状況を総合的に把握されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスを行い理念、グループホームの在り方等を認識し、皆で実践していけるように話し合いをしている。	地域密着型の意義を踏まえて基本理念をつくりあげ、グループホームの在り方を話し合いの中で認識し、管理者や職員は理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏は近所の公園に散歩に出かけ、近隣保育園の園児や、親子連れの方たちと会話をして触れ合っている。デイサービスのお祭りやボランティア訪問に興味のある方には声かけし見に行っている。	散歩の時に地域の人達や近隣の保育所の園児と会話をして触れ合ったり、事業所のイベントの開催を通じて、地域の人達と日常的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生ボランティアを実習生として受け入れを行っているが、地域の人々には運営推進会議に参加している方にしか伝えられていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域や家族の方にも参加して頂き、議題にして欲しいことや施設に関心のある方がいたら、いつでも見学に来られるようにことお話をしている。事故やヒヤリハット、日々の課題も話アドバイスを頂いている。	年6回開催し、市担当者や町内会の出席を得ながら事業所の運営に関する報告や事業の今後の取り組みの意見交換の場になっている。また、日常における事故やヒヤリハットのアドバイスをもらいサービスの向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員として、介護高齢課から会議に参加してもらい、報告し意見をもらっている。包括センターの方にも参加してもらい、いつもアドバイス、意見をもらっている。	市担当課や包括支援センターとは、会議の参加や運営などの相談や日常の業務を通じて情報交換と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を開き話し合いを行っている。拘束が入居者に及ぼす影響を理解し拘束を行わないケアに努めているが、やむをえない危険性がある場合は期限を決めて行っている。	身体拘束委員会が設置されており、そのなかで話し合いを行い、管理者及び職員は身体拘束をしないケアに努めている。また、安全面を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	体にもたらす虐待だけでなく、入居者にかかる言葉にも気をつけ、気持ちを不穏にしないようにしている。職員同志でも不適切な言葉があった時は注意するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職歴の長い職員は知識があるが、新しい職員には、まだ学ぶには至っていない。現在の入居者は、子供又は姪が身元保証人なので、今の所は必要性がないが、なるべく早く学ぶ時間を作りたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく、改正があった際にもきちんと説明し、質問・疑問を聞き理解してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時は必ず声をかけ、入居者の様子を伝え、何か要望がないか聞いている。入居者のみでなく家族の方の様子も時々聞きコミュニケーションを取っている。	面会時に、入居者、家族が気軽に声がけや話のできる環境作りに努めている。また、要望や苦情等の意見箱を設置し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	約月に一度カンファレンスの時間をとり話し合いをしているが、それ以外でもその都度相談し、意見交換を行っている。	毎月のミーティングで、職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、日常の業務のなかで、意見や提案を聞き、運営やケアに反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、休日については、なるべく希望を聞き、働きやすいようにと思っているが、無理をさせている部分もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は、なるべく参加してほしいと思っているが満足に参加できていない。資格のない職員は、その都度、その場面での介護技術や知識を教えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括の提案で東光地域のグループホームのケアマネが集まり、研修会を開催し情報交換や取り組み等の話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の希望に耳を傾け、会話の時間を長く持ち、言葉以外の気持ちを把握できるように努めている。職員にも情報を共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前に家族や本人に見学に来てもらい、施設の方針や認知症の施設であることを説明し、雰囲気を見て感じてもらい、理解・納得したうえで決めてもらうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員全員で話し合い情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることをしっかりと肝に命じ、敬う気持ちを忘れず、相談事等をしてアドバイスをもらったりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の存在が一番大きいということを職員全員が持ち、電話をしたいと訴えがあればかけるようにしている。家族にも了解をもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の面会は、本人にとって、とても嬉しいことなので、大いに受け入れている。遠方の家族の方には宿泊して頂き、食事も提供している。	家族や友人、知人が気軽に来訪できる環境づくりに努め、馴染みの人と交流が途切れないよう支援している。また、遠方の家族には、宿泊や食事を提供し、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの入居者は居間にいて屈ろういである。声の小さい方と耳が遠い方の会話は、聞き違いでトラブルになることがあるので、職員が見守りをして、さりげなく会話に入るようにしている。居間には一人ひとりの居場所があるので特に孤立はしていなく、隣同士で時々会話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の施設を紹介したり、一緒に見学に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切に、会話の中で困っている事や要望を聞くようにしている。入浴時は職員と一対一なので、ゆっくりと時間を取り、何かあれば職員全員が共有し実現できるように心がけている。	一人ひとりの思いや暮らし方を大切にしながら希望、意向の把握に努め、職員間でその情報が共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得ている。他に聞きたいことが出た時は面会に来た家族にも、昔の様子等を聞いて、その人らしさ知るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居年数が長くなってきているので、一日の過ごし方は把握できているが、心身状態は、その日によって違うことがあるので、気になることがあれば記録や連絡ノートに残し、情報を常に共有できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で話される本人の思いや家族の要望を反映できるように心がけている。計画時は職員からも情報・意見・アイデアを持ち寄り、話し合いながら計画を立てている。	日々の生活で、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、職員の情報や意見、アイデアを集約し、カンファレンス、モニタリングを通じて入居者の実態に即した介護計画の作成や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は常に介護計画を意識して書けるように、計画を簡単明瞭にして記録盤に張り付けている。日々の様子に気づきがあれば、情報を共有し、毎朝の申し送りや連絡ノートにも記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズがあるので、その都度、施設にできること、家族に協力を求めた方がよいことなど、話し合いで決めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣のデイサービスの催し物があれば声をかけて希望者は参加させてもらっている。散歩の季節は近隣の保育所の園児たちと触れ合ったり、畑に出ている近隣の方とお話をしたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、本人と家族の希望で決めている。医師には、何かあればすぐに連絡し、常に指示をもらい、適切な医療が受けられるようにしている。	主治医は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、医師には、緊急時や様態変化にも対応できる体制になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師が来て、一人ひとりの健康状態を話している。往診時に来る看護師にも連絡すると、すぐに医師に相談し指示をもらうことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合は、認知症の症状が進行したり、身体機能の低下を防ぐ為に、早期に退院できるように病院や家族と話している。退院時も、施設に戻ってからの生活のアドバイス等をもたらしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては職員と検討中で、本人と残される家族の意向を聞き、家族の協力が大切であることを十分説明し、その都度、医師や職員と何度も慎重に話し合いをして決めていこうと思っている。	看取りは、家族の協力が重要なことから本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員の話し合いと連携で、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない。入居者の状態に必要なが生じた場合は対応の仕方を話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。特に夜勤者は1名なので訓練することにより漠然としたイメージから現実的になり、良い勉強になったと言っている。隣接する支援ハウスの協力も得られるようになってきている。	年2回の避難訓練や消火訓練を実施し、隣接の支援ハウスの職員の協力体制が得られるようになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の大先輩であると言うことを頭に入れ、病気になっていても自尊心を損なわないような声掛けやプライバシーを侵害しないように気を付けている。	人生の先輩であり、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような不適切なケアのないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はコミュニケーションを持つように心がけている。一緒にテレビを見て寄り添いながら会話をしたり、入浴時の一対一の時間も大切にしている。行為を行う時は、確認して同意を得てから行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースを把握しているので、時間や入居者の体調を見ながら、レクや入浴の声掛けをしている。嫌がる時は、それ以上無理に誘わないように注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容は1か月半～2ヶ月ごとに訪問がある。髪形を変えたいと希望があれば相談にのっている。カット後は賞賛の言葉をかけると皆笑顔で返してくれる。手足の爪も伸びすぎないように気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一番の楽しみは食事なので、誕生日には本人の好きなメニューにし、祭日はお赤飯、節句ごとの季節のメニューにしている。好き嫌いの多い方には代替にしたり、糖尿病の方には専用の砂糖を使用している。準備も能力に応じて一部の方に手伝いをもらっている。	食事が楽しみなので、誕生会では、利用者の食べたいものを聞き、メニューが作られており、利用者の一部であるが、職員と一緒に準備や後片付けなどを行っている。また、好き嫌いや持病のある方は、調理やメニューに工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	便秘の方が多いので水分を積極的に進めている。食べる量も一人ひとり分量を変えて提供している咀嚼やくや呑み込みの力に合わせて、刻みやとろみをつけている。体調に合わせて時間や場所も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している入居者は毎食後義歯を外して洗浄している。介助が必要な入居者にも、能力に応じて口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の力や排泄パターンに合わせて誘導したり、介助を行っている。利尿剤の内服で回数が多く失敗してしまうこともあるが、声掛けし気持ち落ち込まない様に介助している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう声かけて誘導して、排泄の自立への支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は多く摂取するように努めているが、飲むと排尿が忙しくなると言って積極的に飲まない入居者も数人いる。その方には下剤で排便を調整している。朝の体操や廊下の歩行も便秘に良いと話し促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は事前に声をかけ希望の時間や体調を聞き、本人の意思を尊重している。入浴剤を使用し視覚でも楽しめるようにしている。	週2回を目安に、一人ひとりの希望やタイミング、体調、生活習慣に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間では、いつでも自由に横になったり、座ったりできるようにしている。夜間、居室で良眠できない場合は居間で寝ていることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	十分ではないが職員には意識して理解して得られるように、3食後の袋に処方されている病院名・種類・目的を貼り、いつでも見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	10時の水分補給は数種類の飲み物が選べるように準備しており、その日の気分によって決めてもらっている。レクや仕事も、本人の負担にならないように様子を見ながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏はほぼ毎日希望を聞きながら散歩に出かけている。買い物もその都度希望があれば行っている。年に数回、計画を立てて少し遠くへも出掛けている。個人的には場所へは家族に協力をお願いしている。	一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物等、戸外に出かけられるように支援している。事業所の年間計画で、遠方にも出かけている。また、本人の希望で、出かける場所によっては、家族の協力も得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は自由にしているが、物とられ妄想がある入居者については金額を確認し、家族と相談し施設で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用することができるようになっている。手紙も返事を出したいと希望があればハガキで代筆している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁は季節毎に変えて明るくなるように飾り付けをしている。気づいた時は使用後のトイレを見て、汚れがあれば、すぐに清掃するようにしている。居間の温度にも気を配り、暖房や換気の調節もまめに行っている。	共用の空間の壁を使って、行事の写真や季節毎の飾り付けを月ごとに変えて掲示しており、共用空間は、広く明るく、暖房や換気を常に調節し、利用者がゆっくりと落ち着ける家庭的な雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にいる時は好きなTV番組を聞いて歌や動物の録画番組を見て楽しめるようにしている。廊下の歩行も隣同志で声をかけ合い一緒に歩行している姿も見られる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使用する物は、本人が使い慣れている物を持参してもらうようにしている。特にタンスや仏壇等は馴染みの物を置いて安心できるようにしている。	本人が使い慣れた家具や寝具、家族の写真や自宅で使われていた日用品、仏壇を持ち込まれ、本人が安心して居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」は、その時々で変化するので、日々見守りしながら様子を観察している。問題が出れば職員と話し合い安全に生活できるように努めている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25 27	その都度変化する心身状態を、職員がより把握できるようにする	どんな小さなことでも、情報の共有を強化し、日々の変化に応じた介護をする。	これまでも日々の変化を把握しているが、特に、朝の申し送りの強化とその日のシフト以外の職員にも連絡ノートを通じ、把握できるように努める。	6か月
2	43	年齢や体力に差が生じ、皆で外出する機会が少なくなっている	個別または、数人ずつでも外出の計画をたてる。	個人の希望を聞き、実践出来るように努める。	1年
3	13	職員の知識のレベルアップに努める	ケアの向上と工夫。	勉強会も兼ねて、カンファレンスを定期的に行う。外部研修にも参加できるようにシフトを組む。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。